

活動の記録

3月20日 晴

3月20日の活動日は春らしい穏やかな晴天でした。この時期、北総の里山ではコブシの白い花が目立ちますが、南部に位置する千年の森周辺ではコブシが見られず、代わりにマメザクラの可愛い花が出迎えてくれました。

今回の参加は伊藤、鶴沢、苅米、久我夫妻、坂本、福島の7名と体験参加の清水さんでした。

コロナ感染の急拡大は収まりつつあるように見えても油断はできませんから、密にならない程度のちょうど良い人数だったと思います。

清水さんは登山が趣味で南房総の山も良く歩くそうです。当日も島内の急斜面を苦にせず軽快に(かつ慎重に)歩いていました。即日入会の手続きをされましたので、今後の活躍を期待しています。

清水さんを案内中、林内ではナラ枯れの被害木を処理するチェーンソーのエンジン音が響いていました。切り倒しの瞬間にはドスンと地響き音が聞こえて来ます。枝葉の付いた立ち木を倒した時の音と明らかに違うのは、空気抵抗の強弱で倒れるスピードに差があるためと思います。飛び散る枯れ枝の量にも違いがあり、ナラ枯れ被害木の処理はそれだけ危険度が高いことになります。

皆さんの注意深い作業により事故無く一日の活動が終えられて何よりでした。(坂本)



体験参加の清水さんの写真は次頁体験記に

ナラ枯れ被害木の伐採

ナラ枯れの被害が急速に広まっていますが、どこも対策は遅れがちです。当会も例外でなく危険木が多い部分を立ち入り禁止にしています。

対策が遅れがちな原因は、(1)急速に被害が広まって対応する労力・時間が足りない。(2)カシノナガキクイムシの侵入を受けても枯れない個体があるため見極めに時間がかかる。(2)被害木は大径木が多く、簡単に伐採できない。などと思われます。

当会は苅米さんの高度なスキルを頼りにして伐採を進めています。今回6本伐採しました。写真は3年前の被害木ですが既に細い枝は落ちて太い枯れ枝が残るのみでした。

2本立ちで1本目はスムーズに伐倒しましたが、2本目は掛かり木になり外すのにかなり苦労しました。ロープを掛ける位置や、チルホールを何度も付け替えて何とか処理することが出来ました。苅米さんの動滑車の利用やロープ操作も臨機応変で、必要に応じて途中で2倍、3倍、4倍と変更できるのはマジックを見ているようです。また、チルホールを何度も付け替え、引いてもらった鶴沢さん、清水さんお疲れ様でした。(伊藤)



3年目の枯損木(中央)



伐採は慎重に



チルホール操作は交代で

今回は二ホンジカ調査の予定が参加人数の関係で急遽ナラ枯れ被害木の処理に予定変更です。危険木の処理は前にも参加していますが今回人数も少なくどうなる事やらちょっと不安もありました。チェーンソーでの作業は苅米さんに任せてチルホールの補助作業です。倒す方向を確認後、チルホールの位置決めは安全に作業するうえで重要な決断になります。とりあえず自分で決めるも最終判断は苅米さんです。チルホールの操作はわかっているがワイヤーを含めて重い物を持つての移動はきつい。今回は掛り木の処理もあったので処理できたのは6本だけ。この後ロープの扱いも教えてもらおう。苅米さん宜しくお願いします。(鶴沢)

千年の森活動に体験参加して

習志野市 清水信幸さん

会の皆様、はじめまして

習志野市から参加させていただきました清水と申します。

コロナ禍を機に里山の整備活動に興味湧き、問い合わせのメールを差し上げたところ、事務局の福島様から丁寧なお誘いのメールを頂戴し、何もわからないまま3月20日の活動日に体験参加をさせていただきました。

古びたたった一本の吊橋で外界と隔絶された豊英島はとてもワクワクします。そして、島に上陸後は先ず最初に活動エリアの全体を掴むために会長さんと福島さんに豊英島を案内していただきました。

一番印象に残ったのは禁断の岬です。あそこは怖かったです。「自然のあるがままに」というコンセプトを大切にされているのか固定ロープなどがなく崖下に降りていくのは勇気が要りました。単なる崖ではなく下は深い湖なのですから・・・滑って落ちたら・・・？しかし、崖下の湖面近くには希少なスハマソウや初見のヒメフタバランなどがひっそりと咲いているのに出会うことができ感激しました。また、それらを的確に見つけ出すお二人の注意力、観察力にも驚きました。

さらには垂直の崖の中ほどにはヒカゲツツジがへばりついているのを確認できたり、天然のシイタケを初めて見ることができたりと、怖い思いをただけのことはありました。とはいえ、禁断の岬を降りる際はロープで確保した方がより安全なのではと思ったのも事実です。

その後は苅米さんが中心となって行われた枯れたコナラの伐採作業に参加させていただきました。チルホールとか初めて見る機械(ウィンチ?)などもあって興味津々でしたが同時に非常に危険な作業だなあと感じました。浮ついた気持ちで参加してはならないとも思いました。皆さんがヘルメットを目深に被って真剣に作業されているのも頷けました。

この日は家の用事の関係で最後まで参加できず、参加された皆様には申し訳ありませんでした。

こんな私ですが入会申し込みをさせていただきました。

私事ですが山歩きの経験は長いのですが、里山での整備活動経験はまったくありません。

皆様どうかご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



体験参加の清水さん



春の陽射しを浴びて島内散策

ヒガンマムシグサ撮影中の清水さん



ウグイスカグラの花一輪

○早春の島内を散策

体験参加の清水さんを案内して、坂本さんと3人で早春の島内を散策しました。

まずは、千年広場から吊り橋方向に向かいスハマソウが自生している湖畔へ。途中、ヤマユリの植生保護柵の中を見回してシュンランを探しましたが残念ながら見つかることはできませんでした。台風の後、保護柵の破損した部分からシカが侵入してしまったせいでしょうか。一方、スハマソウは、水面ぎりぎりのいつもの場所に白い花を咲かせていました。



スハマソウ



コショウノキ



オニシバリ



ヒガンマムシグサ



シュンラン



マメザクラ

スハマソウを見たあとは、斜面を登り巨木林エリアへ。ここでは、白い花を咲かせているコショウノキ、緑色の花を咲かせているオニシバリなどを観察しました。また、巨木林エリアでは、あちこちでよきよきとヒガンマムシグサが伸びてきていました。

ナラ枯れによるコナラの枯死木の伐採作業を横目で見ながら、次は禁断の岬へ。コナラ主体の明るい森から、シイ、カシ類の萌芽林に入ります。尾根をしばらく進んだところで、南側斜面の方から足音が。メスのシカが1頭、南東方向に走っていく姿を見ることができました。ヒメコマツの植栽試験地を越えてさらに細い尾根をたどり、倒木を避けながら急な斜面を下って尾根の北側に回ります。崖の下を回り、ヒカゲツツジの様子を見ると、枯れてはいないものの葉が少なくギリギリで生き残っている状況でした。



ヒカゲツツジ



ヒメフタバラン



急斜面でヒメフタバラン撮影の坂本・清水さん

かなり厳しいルートを通ってきたお目当ては、ヒメフタバランです。やっとのことでたどり着き、足元を慎重に探すと、開花した株を見つけることができました。毎回思いですが、本当に不思議な形をした花です。私には、これが何となく宇宙人に見えるんですが…。

ヒメフタバランを観察した帰り道、禁断の岬の先端近くでシュンランの花を見つけました。シカもなかなか来ないような場所なので、食べられずに開花できたのかもしれない。尾根を戻る途中、コナラの枯れ枝にシイタケが出ていました。シイタケにとっては、今がちょうど春の発生時期のようです。青空にマメザクラの白い花が映え、クロモジの芽吹きが始まり、たっぴりと早春の豊英島を楽しむことができました。(福島)

○センサーカメラの動物たち

今回は、島の入り口に設置したカメラのみデータの回収を行いました。

頻繁に記録されていた哺乳類は、ニホンイタチ、タヌキ、ハクビシンです。このうち、タヌキとハクビシンは2頭が同時に記録されることもありました。この他に、ニホンジカ、アライグマが記録されていました。ニホンイタチ、タヌキ、ハクビシン、アライグマは、吊り橋を渡って島と外を行き来しているようですが、ニホンジカは、吊り橋を渡っている様子はありませんでした。

記録された鳥類は、キジバトが最も多く、この場所によく降りてくるようです。他には、カケス、トラツグミ、シロハラ、オシドリ（複数）が記録されていました。（福島）



タヌキ2頭と一緒に島に渡ってきた



ハクビシン2頭が橋を渡るところ



オシドリが飛んできました

○トビが抱卵中

断崖から湖面方向へ伸びた木に作られたトビの古巣を覗くと、親鳥が飛び立ちました。

巣の中には卵が3個見えましたから、古巣ではなく修復して再使用中だったと分かりました。トビの体色と巣材の枯れ枝の色が同系色で目立たなかったと

は言え、不用意に近づき過ぎて抱卵していた親鳥を追い出してしまったのは野鳥観察者にあるまじき事で反省しなければなりません。30分後に遠くから覗くと親鳥は戻っていましたから一安心でした。

来月の活動日までには雛が誕生していると思います。（坂本）



○フキを植えてみる

久我さんが自分の管理地で増やしたフキを掘り持って来てくれました。

島外の農地で以前に里芋を栽培した高畝が空いていて、フキの生育に適していると思えるので、そこへ植えてみました。

私の車にはスコップや鍬が載せてあるので、こんな時に役立ちます。

獣害さえ無ければ来年の早春には露の臺、初夏にはキャラブキが味わえると思っています。（坂本）

お知らせ

令和4年度の第1回活動日は、4月17日（日）です。年度初めの活動日であり、午前中は定期総会を予定しています。午後からは自由散策、個別活動の予定です。春の豊英島を楽しみながら、総会へのご参加もよろしくお願いいたします。

なお、島で活動する際は、安全のためヘルメットの着用をお願いします。お持ちでない方は貸し出しも可能ですのでご連絡ください。

集合は、9時30分に清和自然休養村管理センター（農産物直売場）です。